



やる気の賞味期限

日本各地で集中豪雨の被害が出ていますが、首都圏でも突発的な雷や豪雨が多いですね。千葉市内の京葉線沿線でも雷雨の場所がずれていたりして局地的な天気急変が特徴でしょうか。塾に来るときに雷が来そうだったら、無理はしないでください。天候が落ち着いてからでかまいませんよ。

さて先日、本屋でビジネスマン向けの新書「仕事ができる人はなぜモチベーションにこだわらないのか」という本をちょっと立ち読みしてみたたら、なんだか生徒の皆さんにも通じることがあるなあと、つい買ってしまいました。人事コンサルタントの著者が、企業の中に広がる「とにかく社員のモチベーションを高めよ、そうすれば成果が挙がるはず」という風潮に反論しているのです。モチベーションというのは大人がよく使う言葉で、簡単に言うと「やる気」のことです。やる気のある状態というのは、回りからみてもいかに成果を挙げてくれそうです。しかし、著者が人事の長い経験のなかで観察したところでは、どの企業でも安定して成果を出し続けている優秀な社員は、むしろやる気に左右されることなく淡々と仕事をしている人たちなのだそうです。

生徒の皆さんは、誰だって「やる気」になる時があり、別に「やる気スイッチ」を探さなくてもいいのですが、問題はそれがいつまで続くかです。そしてまたやる気はささいなことで上下してしまいます。ではどうすれば成果を挙げられるのか。それには、本人も回りの人も、やる気には賞味期限があると理解することから始めなければなりません。もちろん賞味期限にも個人差があるでしょうが（なかには半日なんて人がいるかも）期限切れにならないうちに「型をつくる」ことが大事。「よお～し、やるぞ」と掛け声をかけなくても、やるべきことを普通にやる習慣がついてしまえばこっちのもの。その際には小さなことから始めた方が、長続きするでしょう。

例えば、家に帰ったらまずバッグの中からテキストを取り出して、今日習ったことを確認する。この夏はその習慣から始めよう！